旭川中島

銀河の夜祭り

岡山河畔芸術祭

～河川敷乱舞 新旧おかわま踊り～

夏の終わり、旭川河畔・西中島河川敷。
あかね色の残照が西の空を染める頃、川面に祭囃子が響きます。
伝承踊り「こちゃえ」と創作踊り「なかじま囃子」が織りなす銀河の夜祭りの始まりです。
櫓のまわりを備中温羅太鼓の演奏が陣取り、
囃子に合わせて集い合った市民が踊りの渦を描きます。

【伝承踊り】こちゃえ

（岡山市街に江戸期より伝わるだんじり歌謡）

【振付】近藤良平（ダンスカンパニー「コンドルズ」主宰）
【編曲】松下トオル（株式会社トリノス代表）

【創作踊り】なかじま囃子

【振付】須原由光（ダンスカンパニー「ズンチャチャ」主宰）
【作詞】吉野緋桜（劇団ひびき演出）
【作曲】松下トオル（株式会社トリノス代表）

演奏
〈備中温羅太鼓〉
塩尻司、塩尻将志、服部貴光、塩尻浩司、
松村久美子、吉川大地、北村朋也、
入江陽太、本行一稀、風早翔和、山本暖也

踊り先導
〈ズンチャチャ〉
江口久美子、倉田こまこ、古南佳子、
佐々木侯至、原克子、森安みどり、
森脇皐太、山田暢子、山部遥、山本隆文
〈劇団ひびき〉
鶴川直子、猪熊翔、馬場ひとみ、
隅田啓介、鈴木槙

スタッフ
【舞台監督】熊本光成
（有限会社オールライツ）
【照明・音響】有限会社オールライツ

踊りリーダーの動きに合わせて踊って廻って。老若男女・経験不問だれでも参加できます。

河川敷への動線をバリアフリー化。お子様・お年寄り・車椅子の方までご来場いただけます。

踊りエリアの外周には屋台エリアも併設。星空や川風と一緒にお祭りムードを盛り上げます。

近藤良平 【伝承踊り】振付

振付家・ダンサー。ダンスカンパニー「コンドルズ」主宰。これまでに世界30ヶ国以上で公演を行い、日本のコンテンポラリーダンスでは異例の躍進を遂げる。NHK連続テレビ小説『てっぱん』、NHK大河ドラマ『いだてん』振付、TBS系列『情熱大陸』やNHK総合『地球イチバン』出演、『AERA』表紙など多方面で活躍。多摩美術大学教授、東京大学、立教大学などでも講師を務める。全国各地で公演やワークショップを行っている。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞受賞。彩の国さいたま芸術劇場芸術監督。

［コンドルズ］1996年に男性のみで結成されたダンスカンパニー。トレードマークの学ラン姿でダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法により、独自の世界観に溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界30ヶ国以上で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画、ファッションショーへの出演・振付も多数。2016年に結成20周年を迎え、20周年記念超特別大感謝公演として、NHKホールで2日間の単独公演を行った。埼玉県発の障害者ダンスチーム「ハンドルズ」公演など、多様なアプローチでコンテンポラリーダンスを通じた社会貢献に取り組むほか、近年はSDGsにも力を入れている。日本の舞台芸術界で異彩を放つ注目のダンスグループ。

撮影／佐藤良

須原由光 【創作踊り】振付

幼い頃よりモダンバレエ、ジャズバレエを学ぶ。1995年渡米研修（ノースカロライナ・ハワイ・N.Y等）。1996年アメリカンダンスフェスティバルに奨学生として参加。リリース系テクニック、即興、コンポジションの面白さに傾倒していく。帰国後ダンスカンパニー・ズンチャチャを結成。全世代に開かれた体験講座を長年にわたり継続しながら公演作品の演出、構成、振付、指導の他、オリジナルの音創りや映像編集も手掛ける。一人ひとりの個性や生い立ちなどのライフスタイルをモチーフとし、舞踊だけにとどまらず演劇や映像などの手法も取り入れながら、多くの人が共感できるエンターテインメント作品を創造している。

［ズンチャチャ］《一生青春ダンシング！》を信条とするなんでも有りのダンスパフォーマンス集団。1996年の結成以来、岡山・倉敷を拠点として、ポジティブなエネルギーを放ちながら進化し続けている。また、県内のアーツフェスへの参加、地元の和太鼓グループやアートNPO、倉敷市文化振興財団との協働による作品創作など、幅広い活動を行っている。2022年度福武教育文化賞受賞。

撮影／yukiwo

吉野緋桜 【創作踊り】作詞

劇団ひびき 創立60周年公演

1988年劇団ひびき入団。翌年『嘘・夢・花の物語』で初舞台ののち『きゅうりの花』、『あなたがわかったと言うまで』等の十余作品に出演するも、自身が役者に向いていないことに気づく。劇団での役割を模索し、2007年『月光の夏』で初演出。以来、劇団公演の殆どの作品を演出。言葉を大切にした心理的な芝居づくりにこだわっている。劇団ひびき前代表。おかやま演劇サロン事務局長。

［劇団ひびき］1962年発足以来、岡山市を中心に県内各地で公演を行ってきた。「扮するのではなくそこに存（い）きる」ことを芝居づくりの基本とし、演劇の持つ直接性（生身の身体表現）により、観客一人ひとりの心に響く舞台制作を目指している。1995年に京橋町に専用稽古場（スタジオ）を構え、定期的にワークショップや稽古場公演を開催してきた。55周年（2017年）から「感謝・挑戦・進化」をテーマに幅広い活動に取り組んでいる。

備中温羅太鼓 【伝承・創作踊り】演奏

昭和51年、岡山県総社市に古くから伝わる「温羅伝説」にちなんで結成。地元総社に魅力ある郷土芸能を育て、地域へ定着させるとともに、地方から全国への文化の発信を目指す。県内外、海外へと活動の場を広げ、“ゆらぎ”と“感動”そして“観客との一体感”を打ち手一人ひとりの心に刻み、地域性や独自性を大切にした人間味あふれる文化を創造している。通算公演回数は1,300回を超え、県外では伊勢神宮での「奉納演奏」、県内では「国民文化祭開会式」など岡山県有数の和太鼓団体として活動を継続。また、地元総社での自主定期公演の開催や総社市にある他の和太鼓団体が一堂に会する「和太鼓フェスティバル」など様々な企画運営を手掛けている。

松下 徹

【伝承踊り】編曲
【創作踊り】作曲

株式会社トリノス代表。学生時代より様々なジャンルの音楽作品を発表。現在は企業CMなどの各種音楽コンテンツを制作。岡山市内にある自社スタジオやレコーディングブースでのレコーディングエンジニアなどを務める傍ら、ソロ名義「松下トオル」として活動。在籍するバンド「Bird and Flag」などで各種配信サイトから作品を配信中。

トリノス　https://torinos.jp/

旭座イリュージョン

まち歩きと大道芸サーカス

近代の夜明け、明治4年に岡山初の芝居小屋・旭座が西中島に開場した。その舞台から120年の歴史を誇る木下サーカスが始まります。先達の偉業にリスペクトして、5名の大道芸とサーカスのフリーアーティストが妙技を披露。かつて宿場と花街で賑わった界隈をまち歩きしながら愉しみます。

9月9日(土)・10日(日) 開始10:30／14:00（遊園地集合、両日共通）

会場／出演
西中島河川敷　清水恒男（クロワッサンサーカス団長、綱渡り）
目黒宏次郎（フリー、サーカス）
西中島遊園地　Rei Iwakura（フリー、ヨーヨー）
渡辺あきら（フリー、ジャグリング）
西中島空き地　ペン回し先生Kay（フリー、授業エンターテイメント）

清水恒男

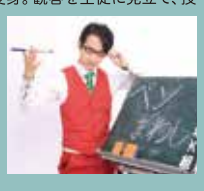
クロワッサンサーカス団長。1990年ヨーロッパ、インド、中南米など世界36ヵ国をパントマイム・曲芸をしながら放浪。現在世界46ヵ国となる。主な演目はマジック・パントマイム・綱渡り。2008年韓国の漢河（長さ1㎞高さ25m）を綱渡りで横断。2019年中国温州市ハイワイヤー世界大会で高さ100mの滝を綱渡り横断。クロワッサンサーカスを主宰し、劇場公演・野外イベントプロデュース・サーカステント公演を行う。主な出演にNHK大河ドラマ「聖徳太子」、TOKIO「ザ！鉄腕！DASH！！」、「笑神様は突然に」年末特番（2015）、「西川きよしのおしゃべりあるき目です」、ももいろクローバーZドームツアー2016、映画「脳天パラダイス」出演2020年公開、FUJI ROCK FES、アビニョンフェスティバル、エジンバラフリンジ、FM COCOLOなど。

目黒宏次郎

1996年生まれ、神奈川県綾瀬市出身。18歳で「沢入国際サーカス学校」に入学、4年間身体訓練に励む。自身で創作したオブジェや鉄パイプを用いて独特の世界観を醸し出す個性的なパフォーマンスで、関東を拠点に活動するサーカスアクター。

ペン回し先生Kay

2019年ペン回し世界大会で優勝。ジャグリングやマジック、ダンス等の要素を融合し、ペン回しをステージショーへ昇華させた世界唯一のペン回しプロパフォーマー。『授業型エンターテイメント』はKayが赤いスーツに身を包んだ先生のキャラクターに変身。観客を生徒に見立て、授業のように進行する新感覚パフォーマンス！文房具を操るキザでナルシストな先生が破天荒な授業を披露する。



Rei Iwakura

7度の世界大会優勝、8度の全日本大会優勝の経歴を持つ、現時点で「公式大会 世界最多優勝記録」を有するヨーヨー世界チャンピオン。誰もが一度は慣れ親しんだ「おもちゃ」の概念を覆す「ヨーヨーショー」を、言葉・年齢・国籍を超えて楽しめるエンターテイメントとして提供する。

渡辺あきら

京都大学理学部出身という異色の経歴を持つプロパフォーマー。スタイリッシュなジャグリングと爽やかな笑顔を武器に、イベントから舞台公演、メディア出演やジャグリング指導など様々なシーンで幅広く活動中。日本では異例のロングラン12年目、ノンバーバルシアター『ギア-GEAR-』にも出演中。

おり帰り！目玉の松ちゃん!!

尾上松之助 活弁無声映画上映会

銀幕のレジェンド、日本映画草創期の大スターとして活躍した尾上松之助は明治8年、西中島町に生まれました。町内の芝居小屋・旭座の子役として人気を博し、関西で映画俳優の道を究めていった目玉の松ちゃんへのオマージュとして、代表的無声映画2作品を活弁士付きで上映いたします。

9月16日(土)・17日(日) 開映13:30（両日共通）
会場／西中島公会堂

上映作品

忠臣蔵　監督／牧野省三　明治43年製作（76分）

豪傑児雷也　監督／牧野省三　大正10年製作（19分）

尾上松之助

映画俳優。本名中村鶴三。岡山市生まれ。歌舞伎（かぶき）俳優を志し、若いころより舞台に立ったが、巡業先で映画監督牧野省三にみいだされ、映画俳優となる。1909年（明治42）『碁盤忠信（ごばんただのぶ）』に初出演。以来、忍術映画や豪傑物、また侠客（きょうかく）物などに主役を演じ、身の軽さから大立回りなどにうまみをみせ、たちまちアイドル・スターとなる。大きな目をむいての大見得が独得の魅力となり、「目玉の松ちゃん」の愛称で親しまれ、サイレント期の時代劇映画に活躍した。出演作品数が1000本を超えるという記録をもち、日本映画俳優史には欠かせぬ人物である。代表作に『豪傑児雷也（じらいや）』（1921）、『荒木又右衛門（またえもん）』（1925）、『忠臣蔵』（1926）などがある。

山城秀之 【無声映画上映】活弁

山口県出身。2009年活動写真弁士のワークショップがきっかけで弁士の道を志し、翌年澤登翠に入門。2011年に新米弁士としてデビュー。無声映画鑑賞会のほか、2017年初の海外公演（イギリス、アイルランド）、野外上映会などに出演。

世良利和 【アフタートーク】講師

1957年島根県大社町生まれ。福山大学専任講師等を経て、映画・アニメ批評や映画史の研究に取り組み、新聞や雑誌に数多くの評論・エッセイを寄せる。主な著作に『その映画に墓はない』、『沖縄劇映画大全』、『まぁ映画な、岡山じゃ県①～③』（いしいひさいち共著）などがある。現在、琉球新報に「アニメは沖縄の夢を見るか」を連載中。岡山理科大学非常勤講師。博士（芸術学）。